



新しく導入した3.0TのMRI装置

当院のMRI（磁気共鳴画像）装置は、昨年4月末まで1.5T（テスラ）MRIをN（北）棟地下とS（南）棟1階の画像センターに1台ずつ配置しておりました。このたび、N棟地下の装置を3.0T（GE社：SIGNA Architect 3.0T）の最上位MRIに更新し、5月1日より、2台とも画像センターにて運用しています。

機器の更新により、頭部血管や整形外科領域（膝・肩・手関節や脊椎など）の画質、描出能は格段に向上し、診断に大きく寄与しています。また、遠かった地下MRIへの導線が解消されたため、患者負担の軽減、検査の効率化にもつながりました。以前のMRI検査数は、月平均で約490件でしたが、現在は570～600件に増加しています。

RI（核医学）検査においてもSPECT（ス

MRIとSPECT装置の更新を終えて

画像センター 放射線室 技師長 石山 喜久



ペクト）装置の更新を行い、10月1日から稼働しています。装置はGE社のOptimaNM/CT640で、これまでと大きく変わった点は、吸収補正用CTを搭載したSPECT装置であることです。

RIスペースは従来の約3倍となり、患者さんが落ち着いて検査を受けられる明るい空間に変わりました。低被ばく、低ノイズ、高コントラスト画像の専用CTを用いて、SPECTデータとCT画像をフュージョン（融合）させ、視覚的にも解りやすい画像を提示することができます。

当院では、脳血流、心筋血流、肺血流や、乳がん、前立腺がんによる全身骨への転移腫瘍の検索など、様々なRI検査を施行しています。少ない被ばく量で、より多くの情報量を画像化、定量化することで、信頼度の高いデータを患者さんに提供しております。

RI、SPECT装置の更新により、診療

放射線技師の業務量も増え、新しい知識の習得も必要となっています。新しい技術に触れることを喜びとし、患者さんが安心して、安全に検査が受けられるよう、研修会や勉強会に参加する等、スタッフは日々の研鑽に励んでおります。

併せて、連携施設の先生方から満足いただける検査データ、診療情報の提供にも努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新しく導入したSPECT装置



日本看護協会では「看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境作り」を基本理念に掲げ、平成22年度から「看護職のワーク・ライフ・バランス（以下WLB）推進ワークショップ」事業がスタートしました。当院もその事業に参加することで、平成27年度から3年間にわたり、WLB実現に向けた取り組みを行ってきました。（下表参照）

平成29年11月に院内保育所が増築され、病児保育を併設した松山リエール保育園が開所しました。私は3人の子供を授かり、

WLB実現に向けた取り組み

- ① 時間外勤務の削減
- ② 有給休暇取得の促進
- ③ NO残業デーの設定
- ④ リーフ体制の導入
- ⑤ 子育てとの両立支援

育児と仕事の両立に奮闘しながら看護師としてのキャリアアップを目指しています

両立できる！ 育児とキャリア支援

7S病棟 副主任 東方 智香

す。子供の成長に合わせて夜間保育も利用しながら、自身のペースで無理なく仕事を継続することができています。保育園での1日の様子を細かく記録してある「えいらい日記」や屋外を元気に散歩している子供の日々成長する姿を見かけると、自然と自分にゆとりが生まれ、活力が湧いてきます。

今までは、子供の急な発熱や回復時期での保育園への預かりは難しく、直前の勤務変更や家族の支援が困難な状況など、対応に苦慮した時期もありました。しかし、病児保育開設により労働環境や体制が整備され、欠勤することなく安心して仕事に励むことができており、大変感謝しています。体調が優れないと保育園から連絡があり、小児科を受診した後、継続して病児保育に預けられること、また病院に隣接しているので、子供の様子を観に行くことができる環境は院内病児保育の強みといえます。

出産や育児によって仕事のキャリアが中断することは、働く女性にとって大きな課題の一つです。私は家族の協力や



えいらい日記

上司、同僚の支えもあり、院内の子育て支援を活用しながら、恵まれた環境で育児と仕事の両立に臨んでいます。今後も子育て世代の良きロールモデルとなれるよう努めてまいります。



とある1日のスケジュール

- 6:00 起床
- 6:20 朝食
- 7:35 子どもを保育園へその後仕事へ
- 業務終了後 保育園お迎え
- 20:30 夕食、入浴
- 22:00 寝かしつけ
- 23:00 就寝